# 俳諧發句三傑集下

亭々舫車著編

秋之部

七月

初秋

七夕

庭姫乃きもとへなるくしに　芳春

赤とも乃杜のいつやはうとみも　〃

まつ長きこゝろや庵の杜　〃

ひこ星のきもうも哮ぬ杜ハ未ぬ　晴雪

きり杜もなまして書ぬ都なる　〃

りん杜き本毎杜芝茶花ふる冬うる　〃

芝茶乃矢柏ふ洗くさ乃の杜　〃

きさゝきもきし人を逢　〃

七夕

庭姫乃きもとへなるくしに小祝　〃



む笹乃ふもとの宮　〃

哉きりなきほうんほうの宮　〃

行よふくなるまて哮ぬ　〃

笹枯夜星ふうまて哮ぬ　〃

翼乃神やさくらんわまし　〃

毎枕星一ま哉なる一　〃

星今宵芝尽ひこ人なるん　〃

行きうう中絶なんな女七夕　〃

星哉雁やハりて哮る白芝人芝　〃

ふも星今ハ本ひこまてくゆるし　〃

七夕や世を大ふろしきの
星をまや人乃安
きよ〳〵汐やお蘭来
秋きよ〳〵松ま
織姫へ二ツや恋〳〵
雲ゐ雪乃名ま

旅中

藤ふぢや伊豆ま薄ほ山
立野や三保乃松原
久能寺一里ま

下ノ二

おくま芭蕉ま
里ま野ま
傾乃世ま
ま雪ま
ま雪ま

冬拾

ま松市屑人乃
梅ま
ま雪ま
ま雪ま

竟栗　　竹松

[illegible]柳やうへさそ[illegible]まそ[illegible]
[illegible]まそもよそもしくまそ[illegible]
[illegible]まそ[illegible]
[illegible]
七月や小[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

露

むまのつめや四聖の指くるま　夢そも
稽つまやよく赤るく人乃そ秋　丶

露

むまのつめや織女の彩繪ぎ　案更
朝露や垣根よ推し　某　丶
空もそや牧しりるの蓑　丶
むらさめや牧しりるの蓑　丶
白玉やまゆ乃ものとつ宛　夢そも
酔さうに合く森るく仕をれの表明も
乃もそうれ男八痛し

悼

露ちるく森ち乃の侘ず　嘯圭

夢路

赤つ毛や髪二人森ひくる　丶
こう後くと転うたるる客れ　嘯圭
外一れ客森ち乃を納てのほるを　案更

露

赤つ毛や何そ仄すこる絵作を　案更
新川や何そ仄すこる　丶
乃おろすや客仄ととろて十乃余　丶

一葉　桐葉

柳ちる

[illegible]
芭蕉
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小比叡乃打ちくはりみえそめ　嘯雪

茅渟かや　をとうれり　仇さうり

風なくふく秋のうみ山もみえうまり

もろこしふく秋のつま雉うる

芝

生ながらもえそふすすき

夕雲に村雨うつる芝の

純乃衣うみーすれの色の

犬乃子をつれ里ちかく村雨来

色もなくふく押うおすすき

まろくしてうつくしや村雨来

摘人乃ちからなき方をうちもすも　宗之

茎ながき方砕くときまきうり

一ふしもまことあもとめたる　等之

如何ともなくおもふ夢のよの

萩

ひとまわり小さき秋乃ゆふ日

赤園に小雨

清萩乃衣ぬぎうつる仮うま

萩折て舟ハとまれとおもふ夜

宗之

秋の宮家ようそ
秋乃てふひよめるふうそ清き
秋と幟　秋と改

つのきよ野や書乃
幟ーそ秋めとんそう秋宮そ
秋乃改の血とゆくもそやも　夢そ

情玲

公人已う七井乃少うんふ　丶
情玲や宮そまるゆ楊乃上　丶
けとうよ情玲うそたりよ辻　案文

玲む一

まそすよ時やこうく義玉　噴墨
秋むやまそもも荷結物　丶

襲雪

みよむの宮乃ふよ九来ふ　案文
集むよそもくくふ来ふ　丶

梅そまと古候

ふよすふ成ーまふ落楼接　噴墨
きふくまそ

噴乃ふまそ

世をやおもひ乃あ経　英之介

月落てくもハ何ゆへ　案之丞

玉をやる秋の夜ふけの狩衣　〃

落てすくなき雪の服ゐも　〃

秋しぐれ　秋之亭

星はうてすむ雪と消てく秋の雲　〃

ごちの木ゝ高根の杉や秋ふかき　〃

詠ぬし二本松の月　〃

垂ぐくの玉ゝ根ぎ神ぞ　〃

江戸迄てこゝ乃ゆやうな秋ぞ　〃



遠山や志ゝ乃ゝ乃ゝ　英之介

影もうや雪消ぬ秋ぞ　〃

ゆふ海や波もくゝ秋乃雲　嘯柳

春中　良来

うぐひすや秋ぞ　〃

なまぐさをみよ海くをゆきゝり　英之介

秋しぐれ　〃

川海老やいふこともなく秋ぞ　〃

蛙鈴やつゆ本よりも秋乃ゝ　〃

ほゝくと雪乃ゝ　嘯柳

秋ふかみ乃上なからまし　嘯素
寝乃ふ水の根うゝ〻浮もせ
雑ふ
柳ちる芝居もおくれ風こうね〻　宗旦
葦ふ秋実やこの侘をとゞ繋る
糸竹乃中ふみこゝろもそゞろ
鴛鴦や蒹葭山口みなかうう家　嘯素
秋星し水和れなこの波之う
角力
家乞ゝ九人ハ山なゝ角力取　英之

神妙ふ古きこゝろ〻志ゝく角力ふ　嘯素
こゝろまゝ衣たゝう御様取　宗旦

## 八月

八朔
八ゝ也藤ゝ染ゝ面乃ふれ　嘯素
田面乃ゝこゝ毎〻くゝる鯉乃ふ姫ふ
八朔乃竹ふ春ゝ折ふ
八ゝ也梅ゝ少ゝ星月夜
八朔や貝色交御代乃ふゝ　宗旦

人遠く雲もとまらぬ月
大方は哀もあまる月の夢
四方風我ひとり出て月

新月や今年もきくの隅田川　夢之吉

先おそふ源つくまや須ふ社月

雨ぬるゝ夜半の月

明月や玄武湖ぬるゝ夜の月

つるき貫ふくもの月

時雨やまき一ほる延乃苗

きふ社月空ハくもりきて笨史

おんほろと忘るゝ月素堂

月なき名月ふるおふかる明るを

ふの月くきく旅をく



東武乃くあ社てうて月ふ

名月ぬるゝ去りまるふ望

月神ぬるゝ山まなふ

新雨

まくろ社鏡のうさかま東ふ

年時ハやり社明ぬるゝ秋ふる

秋ぬるゝ下話ふくく秋ふる人

遠里より旅衣着て
雪雪ふりつもりしきりなり
ふもとの里の夜やけ
松かさをくべてふせる
ふりやみすれば
家毎やきぬくきを
ふりくらしてかきこもり
嘯雪

麻為

乙女子の清衣ふりそそぐ神のこゝ



石井つゝまなきくゝ
ふりそゝぎ上よなりつゝ小雪石
西谷本衣ふり夜やなり竿
遠きあつゝ雪の家中前更下

秣ふ山

秣より山まゝくゝ旅ふり
白三枝降ふくゝ秣の山

ふり屋雁

耳ふりを神ふくゝ入屋秣夢 夢ふ
ふりくやみふり屋雁

稲

稲

芭蕉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月草　[illegible]

[illegible]

[illegible]

指枝

[illegible]　嘯素

[illegible]　宗文

[illegible]

[illegible]　嘯素

[illegible]

[illegible]　宗文

葉山子　[illegible]

[illegible]

[illegible]　宗文

[illegible]

[illegible]　嘯素

麻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝろくや淺瀬なくみる雁我妻　曙毫
雁なきあつる尾花が末のうすもみぢ　〃
こけ猿乃寒くなるまゝ峰の松　〃
ワまき雁雲乃こゝろ山ふところ　〃
こゝろ有雁乃音ハやそしま迄　〃
芙蓉そそ〳〵赤葉よ花乃角　芙蓉
そみち葉そそ小萩や雁我声　〃
もみぢ葉のちるか嘯のこゝろ哉　栞文
雁なくさむる川柳ふかき哉　嘯毫
志ろき角それをうつすもみぢ哉　栞文

雁筆をゝ谷くゝみつゝまれもてゆく　〃
嘯毫乃行衛や雲間ゆ雁乃声　〃
悲しくきゝ雲井雁乃声　〃

春香秋夏ともなく　〃

雲ゝゝ嘯雁さゝ〳〵のそく静ゝ　〃
嘯毫そく花乃頭ゝ雲明ゝ　〃
耳立く嘯雁乃ゝ小男鹿乃　〃
笹ふまれ雁乃羊ゝ赤角乃　〃
嘯山く花ゝ雁乃若竹哉　〃

九月

節句　菊

菓子菓子菓雑記帳

菓九日雅十六屋旧蔵

きく山乃菓なき世なれ　芙蓉

老の菓我国ふるき世也　曉雪

花乃名も書そめてより菓八唯一種

菓子白清きよき詠乃

雪と毋う花もやまくの雫

山さとや板戸傾き菓乃こと

猶とりく菓十種

霜葉乃秋景
秋深之候
紅葉

何乃木之片赤叫秋景紅葉
深山之谷之嵐乃吹下之
之候乃霜尾山
紅葉乃盛之様乃
嶋乃紅葉乃
霜深也此秋乃様





赤ク染ル
者乃通天橋
紅葉乃
秋深之候
紅葉乃吹下
何之嵐乃
之候乃
門之前乃
何之谷乃

墨を入て杉の
人乃親のたゝ

栗

谷〳〵の
るゝ

茅萱

もつ〳〵や茅萱の
茅萱乃本ゟ
ゐし実

先ゟ雁来乃

清〳〵栗拾ひ
栗拾ひ
砂本の実

蓑もすゝ菊ゟ
杉ゟを　菌狩
杉ぐちの
幷乃ちゝ
洒の
ゝきうゝや
ゝ菌ゟ
ゝ菌ゟ
ゝ小陽ゟ
ゝ茱萸
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

杉ぐち等

字時〳〵
小坂ゟ
杉の
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

妙高山

霜

小春

杉木立まばらに入りぬ　笠更
　　焚つもの煙小さうに　嘯水
海の色一日遠きここちして　〃
　　冬ざれさうに入松乃白し　〃
木枯　　自延山
　　風やおとづれやすき所景堂　笠之丈
木がらしや白きこと自慢し　〃
　　こがらしや甲小都木杉　〃
風ふきとめて人おふし　嘯水



風ふきとめむ落葉哉　〃
　　こがらしや岡にかたよる雲ちぎれ　〃
唯一輪木枯の日も有ける　〃
　　落しぶみ
茅舎一つ参れ月のさしこみ　〃
　　ちやのこやこの音なども聞ある　〃
帰花
　　風ふきこぼすまで小春哉　〃
　　ねちとせる松父うすく寒のさなぶり　〃

枯尾花

晴や　ほとゝぎす山より　曉臺
親ともみえず子共の初鰹
松しまや千ゞの雫も時雨ぬる　宗臣
一町乃こしも海やそよ風　〃
秋ちかく秣の人や一ト荷　〃
半ゆく中の小舟なるべし　曉臺
雪ちかうなりて梅さく寒の内　〃

杉風や　猶ゝ波よる冬ごもり　宗臣
細代もうつくなるや春の雨　〃
うぐひすもとく蓑の渋抜や　〃
松乃雫も春を待顔　曉臺

春興　川

苔むすや　入葎より雪の川　宗臣
春興川あり　何の山ぞ遥ゝ　〃

艫

世ばなれて　海遠き春おもふ　曉臺

世の中や月もしづかに暮ゆく秋
みちのくの旅の空なるこころかな
ふるさと
酒のみてうたひてさけぶ人いくつ
時のほどなきこころ川ぞひ
潮ひくころ鍬をおろす磯の小屋
冬ごもりする仲間あや時雨ふる



しづかなる秋の夜小机にもたれつつ衛うち
物ごとに月こそ秋をもたらせる
杉風の亭にて
汐干ごろ松を見うちのうち
渓ふかき雪の中より梅の香
雪吹くころ
つきたての小さき餅や二つより
餅ごとや一二ツよりて雪ふる
月もさす雪も降りて時雨ふる

雪ふきし　ねぶかき雪の　ふみ分て
　　りふもとの　ふみてたれ赤し　雪ふみ窟
雪折や　小笹もしなに　雫哉　　
雪ちらし　ちらしくりまれ　降ちらし
芝雪や　遠き人まで　ふりつもり
雪吹　　浮雪
白妙の　手旋人つ　ふるゆきぞ　芝雪
降出る　八月ぶりの　雪ぞ　又　宋元　宋文
雪降て　人ハ世ワたる　梅と　橋て　曉柔
梅つまん　梅を　ふる涼雪ぶり





冬ながら　月あまり　雲ぬる
　　ふもおもき　雲ぞ　雲ぬる
志ぐれ雲　柱　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる
　　ふもおもき　雲ぞ　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる
ふもおもき　雲ぞ　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる
　　ふもおもき　雲ぞ　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる
雲たなびく　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる
何やなく　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる
　　ふもおもき　雲ぞ　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる
雲組て　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる　雲ぬる

永

湖や こほるともなく 蒼ほ
なき事ぞや 鳰ぬ

廉雪

ぬるともなき 汗ぞ
つるゝ

笈乃素

笑ひ声や 妻子たち
笈乃素のくみよう

永

湖や こほるともなく 蒼ほ
なき事ぞや 鳰ぬ

廉雪

ぬるともなき 汗ぞ
つるゝ

笈乃素

笑ひ声や 妻子たち
笈乃素のくみよう



永

湖や こほるともなく 蒼ほ
なき事ぞや 鳰ぬ

廉雪

ぬるともなき 汗ぞ
つるゝ

笈乃素

笑ひ声や 妻子たち
笈乃素のくみよう



永

湖や こほるともなく 蒼ほ
なき事ぞや 鳰ぬ

廉雪

ぬるともなき 汗ぞ
つるゝ

笈乃素

笑ひ声や 妻子たち
笈乃素のくみよう

鰊

汐焼きして鰊乃黄ばみたるを
乾つきもの一鰊の吸ひ素乃汤　曉雪

乾鮭

乾鮭を焼きてあつ汤肉ゑ
うつさきやすむ本のくまなき　宗文

乾さけや漏る朝の雪
乾さけや雪をふもふも

鰯

鰯うりや売ると指ふ波の上



雪つもる年月稼ぐまぐと魚乃梶
生海苔

生海苔や千俣良古う峠乃二りるま　曉雪
香し宴そうく冷　はよこ落うを綱土
庖厨年景沙弥情む
うらさうとうる生海苔
坊

家ゝ坊年彩のお風をうまるこ
ゆうさうや記とう部要の小　紫　英子

鷹

山住や師を乃果てきりぎりす　宗旦
百姓の柘戸あひもしきりぎす　嘯雲
きりぎりす雲つく師を自雷ず　〃

猫八

猫八や何をこぐとも朝ぼらけ　宗旦
猫をもの猶や佛もまつ糟　〃
猫八や船乃玉ゆもり鶏　〃
猫もちやできるまねつく僧一人　〃

宝を念佛

仏をも講申つまでこそ花　〃



制旨戒ふり　芭蕉
寒静　宝月
宝をや四方をおこそ文ふ静　〃
宝をや和漢小俊乃　〃
宝月我猿めず　宗久
宝月をもり男山　嘯雲

宝物

ふるくハ帝もこほる梅　宗久
宝梅や雪をふる乃上　芭蕉
宝梅や俊をふく風乃気ふ　嘯雲

餅搗

三傑乃名あり此三人乃名のかゝる世に生るゝ人乃こゝろ其故人乃何事をもとめんとするこゝろざしを察するに其人乃

俳諧書目　　文栄堂　大阪心斎橋通北久宝寺町　河内屋嘉七板

芭蕉翁附合集評註　二冊　篤老編　芭蕉を角　嵐雪　素堂　言水　珍碩　来山　春澄　野坡　利牛　右十人發句脇句第一世の諸句を解して見やすく收めたる集也

俳諧十家類題集　五冊　古今句鑑　素外選　四冊　同　拾遺　四冊

新十家發句集　四冊　士朗　月居　樊圃　完来　成美　升六　李由　乙二　樗堂　各發句を載せたる集也

新五子稿　蕪村中興名人五人の發句を二冊に集て収載

俳諧發句題集葉集　升六選　五冊

率化坊發句集　二冊

發句題林十二月抄　小本全一冊　古人の發句四季を十二月おのおのに分ち又は題のおもむきによりて發句の作りやうを引きくらべて擧げ俳諧の作りやうを

花屋菴校
芭蕉翁紙 各一冊のさいこの事 用紙筆をけ形との 変化と紙代全三冊

流行七部集 同居完来 寿海 事附海月の句合 著述和七部集也

發句三傑集 一冊 岐阜蓼太 大二郎の発句 彩霞 ふうらい

花屋菴著
俳諧季寄圖會 四季雑 全部十五冊

繪入注解
季寄摺火打 古板を校正して 新刻出来 再校二冊 好人の便よし

花屋菴校
季寄絹篩 三ツ切懐中本 全一冊

增補花火草 立圖著 小本 一冊

俳諧詞寄濱のきさご 全一冊

俳諧宗祇戻 五冊

流行百家句集 針六選 全四冊

芭蕉翁七書 行燈摺 一ト巻十七葉 句合 嵯峨日記 俵句集 小本二冊 更科紀行 去来抄

四季併題櫻苗 花屋菴寄 並春夏句新撰 全二冊 しく数多集む

發句類葉集 五冊 高木儀著 全五冊


校正和名本艸綱目 十冊 弘法大師御傳記 五冊

整骨新書 四冊 弘法大師行狀圖會 五冊

和語靈寶能毒 一冊 閑齋筆記 三冊

能毒手引艸 一冊 井田圖考 二冊

御書物所 大阪心斎橋通北久宝寺町 河内屋嘉七郎版